ハギ標本に基づいてまとめられたが，この論文中に f. *albiflora* Matsum. の標本は引用されていない．また，東大標本を詳しく引用した Akiyama (1988) の研究でも f. *albiflora* Matsum. の標本は引用されていない．われわれも2008年と2009年とに松村のタイプと同定標本を探したが見つからなかった．f. *albiflora* Matsum. の正体が混乱してきた原因は，松村以後の研究者が f. *albiflora* Matsum. のタイプも松村の同定した f. *albiflora* Matsum. 標本も調べることができなかったためと思われる．おそらく f. *albiflora* Matsum. のタイプ標本は中井 (1927) がハギを研究した時代に既に小石川植物園にあった植物学教室の標本室には見つからなかったと思われる．

中井 (1927) は *Lespedeza bicolor* Turcz. f. *albiflora* Matsum. を萼裂片が萼筒よりも長いと解釈した (Fig. 3)．この解釈はその後の研究者にも受け継がれ，f. *albiflora* Matsum. は今日のシラハギ（シロバナハギ）を指すものと考えられてきた．しかし，原記載から判断すれば，松村の f. *albiflora* Matsum. は萼裂片が明らかに萼筒よりも短く，花は白色で，旗弁は竜骨弁よりも長く，豆果はほぼ円形である．この点でシラハギではなく，ヤマハギの白花品に当てるべきものであると考えられる．

Lespedeza bicolor f. *albiflora* Matsum. のタイプは失われており，この学名のネオタイプを選定する必要がある（ウイーン規約9.14条）．東京大学総合研究博物館にはシロバナヤマハギの標本が所蔵されておらず，北海道大学総合博物館植物標本室所蔵シロバナエゾヤマハギ *L. bicolor* f. *albiflora* Tatew. のタイプは栽培品に基づくものであった（原生地では野生品が1939年当時に既に失われていた）．そこで f. *albiflora* Matsum. のネオタイプとして野生品から採集された Y. Ueno 37496 (TUS) を選定した (Fig. 5).

イギリスで1914年に記載された *Lespedeza bicolor* var. *alba* Bean という学名があり，これを大井 (1953a, b) はヤマハギの白花品，Hatusima (1967) はシラハギと同一種とした．原記載にはタイプ標本が引用されておらず，Bean の関連標本探しを依頼してみたが見つからなかった．しかし，Bean の *Lespedeza bicolor*, *L. sieboldii* および var. *alba* Bean の原記載を検討してみると，var. *alba* Bean はヤマハギの白花品と見てよいと思われる．

([a,*]Botanical Gardens, Tohoku University, Sendai, 980-0862 JAPAN;
[a] 東北大学植物園 津田記念館,
[b]School of Pharmacy, Iwate Medical University, Yahaba, Iwate, 028-3694 JAPAN
[b] 岩手医科大学 薬学部
*Corresponding author: ohashi@m.tohoku.ac.jp)

J. Jpn. Bot. **85**: 330–332 (2010)

葉状の雄ずいをもつヒトリシズカ（センリョウ科）（大森雄治*，三浦半島植物友の会）

Yuji OMORI* and Botanical Society of Miura: *Chloranthus japonicus* (*Chloranthaceae*) with Foliose Stamens

Summary: *Chloranthus japonicus* Siebold (*Chloranthaceae*) with green foliate projections instead of white filamentous stamens was found in Miura Peninsula, Kanagawa Pref., central Japan. These foliate projections, foliose stamens, had three lobes, which were narrowly ellipse in shape, 4–5 mm long and 1–2 mm wide. They looked like trilobate bracts enclosing gynoecia. About three months after anthesis, these stamens fell off from the inflorescence axis with sterile gynoecia. The foliose stamen is considered to be an example of phyllody.

三浦半島南部，横須賀市津久井の武山丘陵の二次林内で，2 m 四方ほどの広さに群生したヒトリシズカの中に，白色糸状の雄ずいではなく，緑色で扁平な葉状突起をもつ花が見出された（Fig. 1A）．

このヒトリシズカの小集団は，シロダモ，スダジイ，コナラ，オオシマザクラなどからなる混交

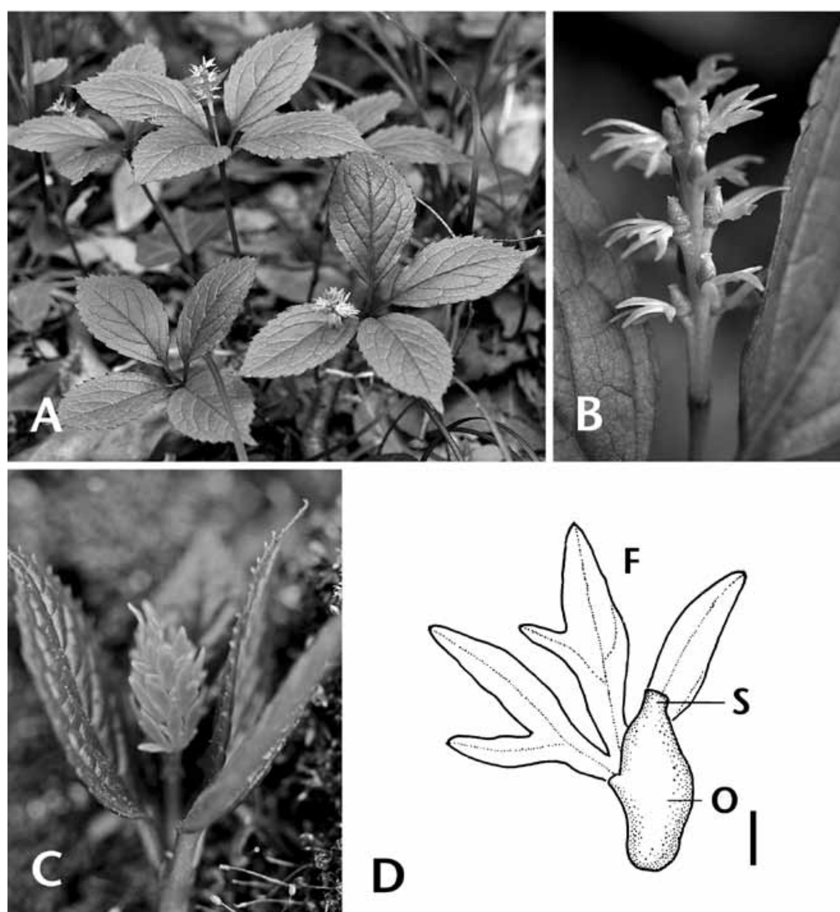


Fig. 1. *Chloranthus japonicus* with foliose stamens. A. Habit in Mt. Take-yama, Yokosuka, Kanagawa Pref., Japan, on 17 April 2008. B. Inflorescence on 17 April 2008. C. Young inflorescence on 6 April 2009. D. Foliose stamens and gynoecium (bract removed). F. Foliose stamen. O. Ovary. S. Style. Scale bar = 1 mm.

林の林床にあり，ホウチャクソウやジャノヒゲ，ヒメカンスゲなどとともにあった．武山丘陵は約200 ha の山林が 1967 年に首都圏近郊緑地特別保全地区に指定され，かつては茅場などもあったが，現在，マテバシイ林を除き，ほとんどが落葉広葉樹と照葉樹の混交林で（神奈川県植物誌調査会三浦ブロック・三浦半島植物友の会 2008），三浦半島の典型的な森林植生のひとつとみなされている（国際生態学センター編 2001）．

今回見出されたヒトリシズカの葉状突起は，3 裂片，まれに 2 裂片からなり，各裂片は狭長楕円形，長さ 4–5 mm，幅 1–2 mm で（Fig. 1B），多くは左右の裂片に比べ，中央の裂片がやや大きく，各裂片から小裂片を出すものもあった．各裂片の中央には維管束が走り，小裂片にも分枝した維管束が見られた（Fig. 1D）．この葉状突起をもつ花は，正常の花と同様，子房の下部は椀状の苞葉で抱かれていた．また，この特異な花は一つの花序全体に現われ，正常な花を混在する花序は，正常の雄ずいが混在したり，葉状の突起に葯のついたもの，またはその痕跡を示すものなどは見られなかった．同様の花序をもつ花茎は 4 本あり，互いに隣接していたので，これらはすべて 1 個体に由来すると推測される．

正常な株の多くは，これらが発見された 2008 年 4 月 17 日には，すでに雄ずいが枯れ落ち，若い果実となっていた．葉状突起をつけた花茎は，同年 7 月 3 日でも 1 本残っていたが，雌ずいは結

実していなかった.

また，翌 2009 年には 4 月 6 日に同地で同様の花序をもつ花茎は 7 本であった．開花前後の 2 個体を採取し，移植して開花の様子を観察したところ，開花前後の葉状突起は初め黄緑白色で（Fig. 1C），次第に緑色が濃くなり，6 月下旬には，雌ずいとともに花序軸から脱落した．いずれも前年同様結実しなかった.

この特異な突起は，上記のように扁平で緑色，3 裂片からなり，子房の背軸側中位に合着すること（Fig. 1D）から，雄ずいの葉化と考えられる.

ヒトリシズカの雄ずいの形態変異に関しては，これまで，花糸と葯の数の変異に関する報告（前川 1970, 1971）があるが，このような葉状突起に変化した変異体は初めてと思われる．また，同科のセンリョウでは苞葉と 2 枚の苞葉をもつ花（Omori 2004），3 本や雌ずいが 2 子房からなる花（Omori 2003）などの変異が記録されている.

チャラン属の雄ずい群の由来は，3 裂した 1 本の雄ずい，あるいは 3 本が側方合着との 2 説があるが，器官発生学的見地（Endress 1987）と白亜紀の化石証拠（Friis et al. 1986）からは，3 本の雄ずいに由来する可能性が高いことを示している．今回発見された葉状突起も浅裂や中裂したものはなく，ほぼ全裂しており，3 個の突起に由来すると推定される．一般的に心皮の葉化や雄ずいの弁化は多くの例があり，よく知られているが（例えば Weberling 1989），雄ずいの葉化の例は少ないと思われる.

引用文献

Endress P. K. 1987. The *Chloranthaceae*: reproductive structures and phylogenetic position. Bot. Jahrb. Syst. **109**(2): 153–226.

Friis E. M., Crane P. R. and Pederson K. R. 1986. Floral evidence for Cretaceous chloranthoid anigiosperms. Nature **320**(13): 163–164.

神奈川県植物誌調査会三浦ブロック・三浦半島植物友の会 2008. 三浦半島南部，武山の植物相とその特色 . 横須賀市博物館研究報告（自然）(55): 47–65.

（財）国際生態学センター編 2001. よこすかの植生―みどりの調査と活用のための提案―. 168 pp. 横須賀市.

前川文夫 1970. ヒトリシズカのおしべについて . 植物研究雑誌 **45**(10): 289–294.

前川文夫 1971. 再びヒトリシズカのおしべについて . 植物研究雑誌 **46**(7): 198.

Omori Y. 2003. Floral anatomy of *Sarcandra glabra* (Thunb.) Nakai (*Chloranthaceae*): reevaluation of the hypothesis that the flower of *Sarcandra* was derived from an inflorescence. Sci. Rep. Yokosuka City Mus. (50): 21–32.

Omori Y. 2004. Morphological implications of three bracts enclosing the flower of *Sarcandra glabra*. Sci. Rep. Yokosuka City Mus. (51): 34-37.

Weberling F. 1989. Morphology of Flowers and Inflorescences (translated by R. J. Pankhurst). 405 pp. Cambridge University Press, Cambridge.

（横須賀市自然・人文博物館
238-0016 神奈川県横須賀市深田台 95 番地
Yokosuka City Museum,
95, Fakadadai, Yokosuka, 238-0016 JAPAN
*Corresponding author:
yuji-oomori@city.yokosuka.kanagawa.jp）